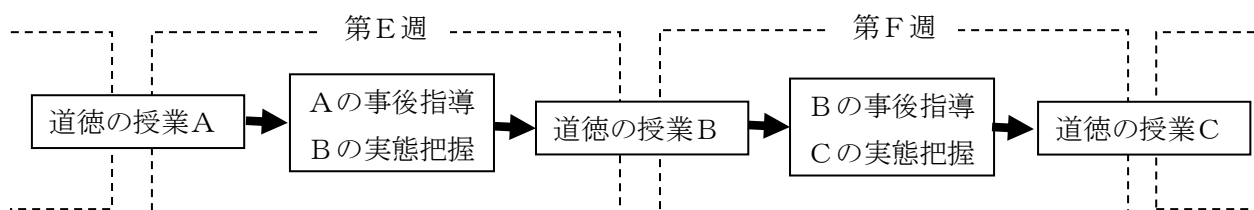


#### 4 道徳の授業を道徳的实践に結びつけるために



授業Bを行う場合は、Bで扱う道徳的価値に関する子供の実態を把握した上で授業を行う必要があります。扱う価値に照らし合わせ、高い価値観をもった子・低い価値観しかもてていない子、自律的に行動できる子・他律的に行動する子等の観点で、数人ずつチェックしておくといいでしょう。

そして、授業の核心部分で意図的に指名し、価値観の違う子どもどうしを互いに話し合いに引きずり込む。低い価値観の子に、「(高い価値観をもつ) A君の～という考えをあなたはどう思いますか(考えますか)」と聞いてみてください。そして、意見を聞いたA君にさらに「～君の考えをどう思うか」と聞きながら、互いの価値観の違いを明確にします。話し合っている場面での考え方が素敵で、望ましいのかを子供たちに判断できるように、価値に関する話し合いができると最高です。とにかく、意見の発表のし合いだけで終わってしまうことが多いのですが、突き詰めて考えてみれば、多様な意見を多様なままで終わらせてしまっただけは、公教育として道徳をやっている意味がありません。ぜひとも一歩踏み入ってみるとどうでしょう。思っても見ない子から驚くような発言が出されることもあり、子供理解の上でも、生徒指導上でも大変役立ちます。

Bの授業が終わったら、今度は、日常生活や授業において、子供の行動をよく観察してください。高い価値判断に基づく道徳的な行為が行われる可能性がありますし、子供の心理面で変

化が見られる場合もあります。道徳の授業でまいた種が芽を出しているのです。日記や生活記録で関連する記述があれば、これも道徳の授業が利いていると考えてください。せめて次の週の道徳の授業を行うまでの間ぐらまでは、丁寧に見取ってあげたいものです。

もし、よい行いが見られたら、そこが勝負です。大いに褒めてあげてください。めちゃくちゃ褒めてあげてください。これによって、良い行いに肥料と水をあげることで、強化できます。学級の他の生徒に誰とは伝えないまでも、「このような良い行いが見られたこと」を伝えることで、さらにこの輪が一人でも二人でも増えればもうけものです。10人になれば、必ず学級は変わります。なお、まったく良い行いの兆候が見られないのなら、自分の授業や子供の見方を反省し、あえて良い行いをやらざるをえないような状況を作って、その中で活動させてください。そこで褒めるのもありだと思います。私は、窓明けのために校舎を回っていて、目が合った子が窓を開け始めると、「おっ、気付いたね」と褒めるようにしています。

一番いけないのが授業をやってやりっぱなしにすることです。一度に全員を支援・指導することはできないので、1回の道徳の授業で数人ずつ支援し、年間を通じて全員の道徳性を高められるように意図的・計画的・継続的に指導を進めましょう。その結果や途中経過を通知表や指導要録に記し、その子の成長として記録をしてあげる。まさに心を育てる先生の仕事です。

## 心理学からみた道徳性の発達

次の問題を考えてみてください。

あなたには、大切な家族がいます。あなたが消防団員として、任務を遂行している最中に大地震が起こったら、あなたは、次のAとBのどちらを選びますか。また、どうしてその選択肢を選ぶのですか。

- A そのまま職務を遂行する。
- B 家族のもとに急いで帰る。

あなたはが選んだ理由は、下の段階1から段階6までのどれに一番近かったでしょうか。

### 段階1 罰の回避及び権威への従順志向 (他律的道德)

「偉い人に叱られるといけないから、その場にとどまろう。」

### 段階2 利益を求める素朴な個人主義志向

「家族と死に別れたら後になって悔やむだろうから、家に帰ろう」

### 段階3 他者との一致性志向 (良い子志向)

「良い夫は家族のことを思うべきだから、家に帰ろう」

### 段階4 権威と社会秩序維持志向

「持ち場を離れてはいけないという規則があるのだから、この場にとどまろう」

### 段階5 社会的契約の形式主義的重視志向

「防災当局と契約をしているのだから、

現場にとどまろう」

### 段階6 普遍的倫理的原理志向

「少数の意見より多数の命の方を守るべきだから、現場にとどまろう」  
(コールバーグの道徳性認知発達理論より)

コールバーグは、ピアジェの道徳性の発達の考え方を大人にまで広げた理論を打ち立てた発達心理学者です。どういう行動をしたかよりも、なぜそのような行動をとったかという理由付けによって、その個人のもつ道徳性は決まると言われています。なお、コールバーグの道徳性の発達理論は男性に特徴的であり女性の考え方は違うと批判したギリガン博士の考えもありますが、それは調べてみてください。

コールバーグの実験結果によると、より高い価値判断のできる人ほど、道徳的行為が表面に現れる確率が高くなるそうです。子供から段階0や段階1で、大人になると段階6になるというわけではなく、大人でも段階2のままどまっている場合もあるそうです。

さらに、実験結果によると、道徳性がこのような発達段階を示すことは、人種や民族による差は見られないということだそうです。また、道徳性を発達させるためには、モラルジレンマ等を用いた授業を行い、その個人のもつ段階より1段階上の道徳性を持つ人の考えをぶつけることで伸ばしてやる必要があるそうです。

さて、みなさんの道徳性は、どの段階にあっただしょう。ひよっとすると、子供の中に、皆さんより高い道徳性をもつ子がいるかもしれません。道徳の授業を楽しみながら探してみてください。